

平成24年度学術情報委員会活動経過報告

I. 会議等の開催状況

- 第1回 平成24年 8月 7日(火) 於：京都大学附属図書館
第2回 平成24年11月13日(火) 於：九州大学附属図書館

II. 活動内容

1. 学術情報委員会の任務について

今年度から、昨年度までの「学術情報流通改革検討特別委員会」の任務のうち、JUSTICE(大学コンソーシアム連合)に引き継がれるものを除く任務を統合し担当することとなった。

2. 今年度の学術情報委員会の活動について

今年度は、以下の4点を中心に取り組むこととした。

- (1) 学術情報流通の在り方と大学図書館が果たすべき役割等についての調査検討
- 学術情報流通(学術論文)に関する様々な取り組み(古典的流通、オープンアクセス、機関リポジトリ等々)とそれらの課題を整理・評価し、大学図書館の役割及び課題を明らかにする。
 - 電子書籍、特に国内電子書籍流通(図書館への供給状況)について基本的な調査(出版や書店等の担当者へのヒアリングを含む)を行い、大学図書館の役割及び課題を明らかにする。
 - 「学術情報流通検討小委員会」を設置する。(新規)
- (2) GIF(Global ILL Framework)プロジェクトの評価と運用支援体制の整備
- GIFの活動が、日米10年、日韓5年を迎えたことを機会に活動全体を総括・評価し、今後の課題、方針を明らかにする。
 - 運用支援体制を整備する。(メンバーの世代交代を含む)
 - 国公立大学図書館協力委員会 GIFプロジェクトとの共同体制を確立する。
 - 「GIFプロジェクトチーム」を設置する。(継続)
- (3) 学術情報の利用と保存に関する検討(継続)
- 図書館所蔵資料や電子情報資源等の同一レイヤーでの検索システム及び電子環境下における大学図書館の資料保存について調査検討する。
 - 「学術情報の利用促進と保存プロジェクトチーム」を設置する。(継続)
- (4) 学術情報流通セミナー(仮称)の開催
- 昨年度まで「学術情報流通改革検討特別委員会」が開催してきた「学術情報流通改

革シンポジウム」を引き継ぎ開催する。

今年度の開催趣旨を、「学術情報流通改革への取り組みに向けて、各大学、各担当者が状況認識を共有できるよう、学術情報流通改革の動向と課題について概観すること」とし、「学術情報流通セミナー」として開催することとした。

3. 学術情報流通検討小委員会の活動について

1) 会議開催状況

第1回 平成24年9月18日(火) 於：京都大学附属図書館

2) 活動状況

(1) 検討・協議

今年度の課題を確認し、次の2点について検討した。

- ① 学術情報流通のさまざまな新旧の方式（伝統的方式、オープンアクセス、機関リポジトリ等）の現状・課題を協議・検討した。今後も引き続き検討する予定である。
- ② 電子書籍、特に国内電子書籍の現状についての検討を行った。今後、継続して検討する予定である。また、電子書籍を巡る状況をより実態に即して把握するため、電子書籍関係者や導入実績のある公共図書館等の実地調査（ヒアリング）を行うこととした。

(2) 電子書籍に関する実地調査

国内の電子書籍の実態を把握するため、第一段階として、以下の出版関係者や、委員の勤務地に近い図書館について分担して調査を行った。この調査結果を踏まえ調査検討を進める予定である。

○国内電子書籍に関する出版関係者及び導入公共図書館への調査

10月17日	出版デジタル機構	10月26日	堺市立図書館
10月23日	浜松市立図書館	11月5日	札幌市中央図書館
10月24日	千代田図書館		

(3) 学術情報流通セミナー（仮称）の企画案の作成

セミナーの構成及び講師、開催期日、会場について検討し、案としてとりまとめ、学術情報委員会に報告・提案した。

4. GIF プロジェクトチームの活動について

1) 会議開催状況

- ・第1回 GIF プロジェクトチーム、国公私大学図書館協力委員会 GIF プロジェクトチーム合同会議（平成 24 年 10 月 25 日開催 於：学術総合センター）
 1. 日米・日韓 ILL/DD の現状について
 2. 今後の役割分担について
 3. NCC 理事会出席報告

2) 活動状況

(1) 日米 ILL/DD プロジェクト

①「文献複写サービス」参加状況

参加機関数は、平成 24 年 9 月 30 日現在、日本側 160、米国側 89 であり、平成 23 年 4 月以降、日本側で 1 館、米国側で 6 館増加の状況である。

②「現物貸借サービス」参加状況

参加機関数は、上記同日現在、日本側 89、北米側 47 であり、平成 24 年 4 月以降、日本側は変動なし、北米側は 1 館増加の状況である。

③日米 ILL/DD 実施状況

平成 24 年 4 月 1 日～9 月 29 日までの日米 ILL/DD の実施状況は、表 1 のとおりである。前年同期に比べ、依頼件数で 91 件減、受付件数で 217 件減と縮小傾向である。日本側受付分の謝絶率は 67.1%である。(66.3% (19 年度) →73.0%(20 年度)→67.5% (21 年度) →67.3% (22 年度) →65.7% (23 年度))。一方、日本側依頼分の謝絶率は 40.6%である。(58.6% (19 年度) →45.2%(20 年度)→47.6% (21 年度) →45.4% (22 年度) →35.7% (23 年度))

表 1 日米 ILL/DD 実施状況 (平成 24 年 4 月～9 月)

	依頼件数				受付件数			
	完了	謝絶	その他	計	完了	謝絶	その他	計
文献複写	439	285	0	724	181	260	0	441
現物貸借	106	88	0	194	70	251	0	321
合計	545	373	0	918	251	511	0	762

(2) 日韓 ILL/DD プロジェクト

①参加状況

参加機関数は、平成 24 年 9 月 30 日現在、日本側 115、韓国側 301 館となっている。平成 24 年 4 月以降、日本側では変動なし、韓国側で 2 館の増加である。

②日韓 ILL/DD 実施状況

平成 24 年度の 4 月 1 日～9 月 30 日までの日韓 ILL/DD の実施状況は、表 2 のとおりである。前年に比べ、依頼件数は 29 件増、受付件数は 209 件増、依頼・受付とも増加傾向である。謝絶率は依頼分が 21.3%で昨年度（6.3%）に比べ、かなり高い数値となっている。受付分においても 35.7%で昨年度（29.8%）より高い数値である。依然として、日本側受付件数が依頼件数を大きく上回る状況が続いている。

表 2 日韓 ILL/DD 実施状況（平成 24 年 4 月～9 月）

	依頼件数				受付件数			
	完了	謝絶	その他	計	完了	謝絶	その他	計
文献複写	48	13	0	61	1,147	637	0	1,784

(3) NCC* 会議出席報告

日米 ILL の米国側団体である NCC の招へいにより、相原委員（京都大学附属図書館情報サービス課長）が平成 24 年 9 月 27 日～29 日にオハイオ州で開催された諸会議に参加した。

①OCLC/NCC 会議（9 月 27 日）

・ OCLC の今後の ISO ILL 対応について

現在、ISO TC46 で検討されている内容を踏まえて ISO ILL への対応を考える、TCP/IP から Web ベースのサービスへの転換が必要、現行プロトコルのサポートは今後 5 年継続する、とのこと。

・ GIF でのエラー対策への要望と OCLC 側の対応

マルチカレンシーへの対応、OCLC Policy Directory への日本側からのアクセス等の要望を行ったが、現状では対応予定はないとのこと。4 日ルール（レコードが 4 日以上放置されると自動的に次候補館への依頼になる）に関しては、来年 5 月を目途に、受付館側で日数を指定できるようにするとのこと。

②NCC 理事会（9 月 28 日～29 日）

- ・ 年 1 回開かれる総括会議として位置づけられており、関係各機関、各プロジェクトのこの 1 年の取り組みが報告された。
- ・ ILL/DD Committee 関連では、OCLC との会議報告、主にエラー対応を中心とした参加館サポートの取り組み、日米間のデータ送信テスト等が報告された。

* NCC : North American Coordinating Council on Japanese Library Resources (北米日本研究資料調整協議会)

- ・11月の図書館総合展で、フォーラムに出展すること、その意義とプログラム案について報告があった。

3) 課題等

今後、次の課題について検討を始めている。

- ①GIFプロジェクトの位置づけ及び運用体制の再整備
- ②GIFプロジェクトにおける業務的位置づけの確認と、担当者の継続的な業務スキルの向上

5. 学術情報の利用促進と保存プロジェクトチームの活動について

昨年度に引き続き、本プロジェクトチームでは、図書館所蔵資料のみならず、契約している電子情報資源や機関リポジトリのような自機関による電子化資料を同じレイヤーで検索できるウェブスケールディスカバリサービス(WSDS)の現況調査を行うとともに、新たに欧米における資料の電子化を背景とした Shared Print Repositories などの印刷体の資料保存について調査し、合わせて電子環境下におけるわが国の大学図書館の資料保存について検討する予定である。

Ⅲ. 委員構成

1. 学術情報委員会

引原 隆士	京都大学図書館機構長	(委員長)	(平成24年10月1日～)
林 信夫	京都大学図書館機構長	(委員長)	(～平成24年9月30日)
新田 孝彦	北海道大学附属図書館長		
鈴木 雅子	旭川医科大学図書館情報課長		
関川 雅彦	筑波大学附属図書館副館長		
竹内 比呂也	千葉大学附属図書館長		
木下 聡	東京大学附属図書館情報管理課長		
加徳 健三	一橋大学学術・図書部長		
井上 恵美	浜松医科大学学術情報課長		
加藤 信哉	名古屋大学附属図書館事務部長		
栃谷 泰文	京都大学附属図書館事務部長		
相原 雪乃	京都大学附属図書館情報サービス課長		
吉田 素文	九州大学附属図書館副館長		
鈴木 秀樹	国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課長		
(事務)			
加藤 晃一	京都大学附属図書館情報管理課長		
井上 敏宏	京都大学附属図書館情報管理課長補佐		

2. 学術情報流通検討小委員会

栃谷 泰文	京都大学附属図書館事務部長 (小委員長)
鈴木 雅子	旭川医科大学 教務部図書館情報課長
木下 聡	東京大学附属図書館情報管理課長
原 香寿子	東京大学附属図書館情報管理課 資料管理係長
高井 力	東京学芸大学教育研究支援部学術情報課学術企画係長
井上 恵美	浜松医科大学学術情報課長
富岡 達治	京都大学人間・環境学研究科情報管理掛長
森石 みどり	大阪大学附属図書館利用支援課フロアサービス班専門職員

3. GIF プロジェクトチーム

加徳 健三	一橋大学学術・図書部長 (主査)
細川 聖二	筑波大学附属図書館情報サービス課長
森 恭子	東京大学大学院理学系研究科・理学部総務課図書チーム係長
菅原 光	一橋大学学術・図書部学術サービス課レファレンス係長
上村 順一	東京海洋大学附属図書館情報サービス係長
相原 雪乃	京都大学附属図書館情報サービス課長

4. 学術情報の利用促進と保存プロジェクトチーム

関川 雅彦	筑波大学附属図書館副館長
竹内 比呂也	千葉大学附属図書館長
加藤 信哉	名古屋大学附属図書館事務部長

平成 24 年度国立大学図書館協会
学術情報流通セミナーの開催について

趣 旨：学術情報流通改革の取り組みは、種々多様となっており、その全体を個々人が把握することが困難になっている。各大学の担当者や管理職が、学術情報流通改革への取り組みについて、状況認識を共有できるよう、学術情報流通の動向と課題について概観する。

従来、学術情報流通改革検討特別委員会が担当してきた「学術情報流通改革シンポジウム」を継承するものであるが、今年度は、基礎的な知見を得る機会とするため、「セミナー」として開催する。

名 称：学術情報流通セミナー ―改革に向けての共通認識のために―

主 催：国立大学図書館協会

日 時：平成 25 年 1 月 24 日（木） 13 時 30 分～17 時

場 所：東京大学大学院理学研究科・理学部 小柴ホール

対 象：国立大学図書館協会会員館の、主に係長から管理職まで（170 名）

構 成： ※それぞれのタイトルは、仮題

1. はじめに

2. 伝統的な学術雑誌・電子ジャーナルの現状と動向

講師：国立情報学研究所 学術基盤推進部 図書館連携・協力室長、
大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)事務局長
熊淵 智行

3. オープンアクセスの現状と動向

講師：小樽商科大学学術情報課長 杉田 茂樹

4. リポジトリの現状と動向

講師：筑波大学附属図書館情報管理課長 内島 秀樹

5. パネルディスカッション 学術情報流通の課題と今後

司会：京都大学附属図書館事務部長 栃谷 泰文

実施担当：学術情報委員会（学術情報流通検討小委員会）及び国立大学図書館協会事務局